

まちの話題

話題・情報は、企画課へ

TEL 76-0212 FAX 76-0222
eメール yazu-kikaku@town.yazu.tottori.jp



満百歳を迎えられた竹田 芳野さん

**おめでとございませす
百歳を迎えられました**

八頭町では、満百歳を迎えられた方をお祝いする長寿表彰を行っています。

このたび、竹田芳野さん（郡家殿）が6月7日に満百歳を迎えられ、吉田英人町長から寿詞と記念品が贈呈されました。これからもお元気にお過ごしください。

**星形田んぼを作ろう！
日田で星空舞の田植え体験**



星形にテープを張った田んぼで泥んこになりながら手植えを行う参加者

鳥取県オリジナルブランド米「星空舞」の本格的な生産と販売開始5周年を記念した田植え体験イベントが、日田農業生産組合の田んぼで5月28日（日）に開催されました。

星空舞ブランド化推進協議会が主催し、平井伸治知事、吉田英人町長、日田子供会、SNSで募集した一般参加者など、約50人が一本一本丁寧に手植えを体験しました。この「星形田んぼ」は県内5カ所に設置され、各田んぼを巡ると星空舞などが当たるキャンペーンが用意されています。

平井知事は「特Aを取れるよう産地としてみんなで盛り上げ、今年もおいしいお米を全国に届けたい」と話されました。

**八頭町の魅力ある風景
水彩画原画展を開催**

八頭町情報発信事業の一環として、あーとふる八頭を会場に「八頭町の魅力ある風景水彩画原画展」が6月3日（土）から25日（日）まで開催されました。

この原画展は、八頭町の魅力ある風景画を昨年20点作成したことによるもので、開催初日には原画制作者で水彩画家の竹内ロウさんによるギャラリートークが行われ、会場は多くの来場者で賑わいました。

東京在住が長かった竹内さんは「八頭町は自然が豊か。昔ながらの風景も多く残っていて、これからも描き続けたい」と話されました。

来場者や町内の小中学生には、ポスターカードを配布。広く八頭町の魅力発信となることが期待されます。



描いた風景の印象や制作方法を話す竹内ロウさん（写真右から2人目）

褒章 藍綬褒章



令和5年春の褒章において、北本孝之さん（東）が「藍綬褒章」を受章されました。

北本さんは、保護司として20年余の永きにわたり、犯罪や非行に陥った人たちの更生・再犯防止や出所者の社会復帰に尽力されました。

現在、八頭保護区保護司会会長を務めるとともに、県就労支援事業者機構の事務局長として、関係機関と連携して出所者の働く場所の確保に取り組んでおられます。

受章を「更生した出所者が元気な姿を見せてくれたり、雇用主の協力が得られた時はうれしい。罪を犯した人々を地域の中で支えていくためにも広く活動の周知を図りたい。今後は町と連携して、医療や福祉の分野でさらに支援の手が届く環境を作れたら」と話されました。

叙勲 瑞宝双光章

令和5年春の叙勲において、山本茂さん（船岡殿）が保健衛生功労で「瑞宝双光章」を受章されました。

山本さんは、昭和45年4月から診療放射線技師として39年間医療に従事し、その永くを鳥取県立中央病院で勤務されました。この間、平成14年4月から同病院の放射線室長、鳥取県診療放射線技師会の常務理事・副会長などの要職を歴任されるなど、診断に欠かせないCT、MRIなどの画像診断や放射線治療の分野で地域医療の発展に尽力されました。

定年退職後も現役技師としてご活躍され、受章を「大変光栄です。初心に戻り、今後も地域の皆さんの健康増進の役に立てれば」と話されました。



叙勲 瑞宝単光章



令和5年春の叙勲において、山本俊幸さん（堀越）が郵政業務功労で「瑞宝単光章」を受章されました。

山本さんは、昭和48年に郵政省に採用され、東広島市内の郵便局を初任地に、中私都郵便局で24年間、また、平成22年3月まで鳥取中央郵便局第一集荷営業課郡家配達センターの総務主任として勤務され、永きにわたり、郵政事業の発展と地域の活性化に尽力されました。

受章を「信じられない気持ちです。地域の方々と職場、家族の支えがあったものと感謝しています。特に、保険の外勤業務ではお客様に育ててもらいました。これからも地域に恩返しができるよう、微力ながら頑張っていきたいです」と話されました。

叙勲 瑞宝双光章

4月8日付、第40回危険業務従事者叙勲において、清水頼幸さん（門尾）が警察功労で「瑞宝双光章」を受章されました。

清水さんは、昭和43年4月から42年間の永きにわたり、警察官として鳥取警察署や警察本部、倉吉署、智頭署などで勤務され、犯罪の防止や地域住民の安全に尽力されました。在職中は、主に警備部門を中心に、災害救助やデモ対応、要人警護などの治安維持に努められました。

受章を「日々地域の安全を守ることに力を注いだのも、先輩や同僚、地域の方のおかげです。何事も一歩前進を信条に、今後も地域とのつながりを大事に過ごしたい」と話されました。

